

株主・投資家の皆様へ

株主通信

2023年度(1～12月)



Contents

1	JT Group Purpose
2	TOP MESSAGE
4	2023年度 決算報告/2024年度 見込
5	たばこ事業・医薬事業・加工食品事業 実績
8	JT TOPICS
18	連結財務諸表
20	会社概要/株式の状況/株主メモ
21	役員一覧/株価の推移



心の豊かさを、もっと。

私たちJTグループは、これまでずっと、
心豊かに生きるための「とき」と向き合ってきました。

科学やテクノロジーの進化、価値観の多様化。
どんなに時代が変わっても、私たちは、
今ここにある何気ない瞬間にも喜びを見つけられる、
心の豊かさを大切にしたいと思っています。

ありのままの自分を認められる「とき」
大切なひとと喜びを共有する「とき」
それぞれを認め合って、高め合って過ごす「とき」
そんな素晴らしい「とき」の積み重ねが、
素晴らしい毎日をつくり、素晴らしい人生をつくる。
そしてきっと、社会、世界、未来までをも、よりよくしていく。

JTグループは、提供してきた心の豊かさを、次のステージへ。
より多くのお客様やパートナーと、さまざまな事業や取り組みを通じて、
社会に心の豊かさを育んでいきます。

「今日もよい一日だった」と感じられる心豊かな社会のために、
私たちができることのすべてを。

JT Group Purposeについて

JTグループでは、不変の企業理念である4Sモデルと合わせ、社会とその中に存在する当社グループの事業が持続可能であるために、当社グループが目指すべき方向を示すJT Group Purposeを策定しております。このJT Group Purposeに基づき、各事業戦略を着実に遂行しつつ、コーポレートR&D組織であるD-LABにおける研究、事業シーズ探索・創出の取り組みを推進してまいりました。また、昨年5月に改定したJT Group Materialityを踏まえ、2024年度に、25項目からなるJT Group Sustainability Targetsを策定いたしました。

今後も不変の企業理念である4Sモデルと合わせて、時代や人により、多様で変化していく「心の豊かさ」に寄り添いながら、現在のJTグループの姿に限定せず、より発展的なあらゆる企業活動を通じて「心の豊かさ」という価値提供を実現したいと考えております。

2022年度に引き続き、売上収益から当期利益まで過去最高となる実績*¹
経営理念である4Sモデルに則り、JT Group Purpose実現に向けて取組
みを継続してまいります



代表取締役社長

寺 島 正 道

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

また、令和6年能登半島地震により被災されました皆様に心からお見舞い申し上げますとともに、被災地の一日も早い復興をお祈り申し上げます。

2023年度 実績

2023年度は、地政学的なリスクの顕在化、世界的なインフレに伴うサプライチェーンコストの上昇、大幅な為替変動等、世界的に見ても引き続き厳しい事業環境であり、変化の中にある年であったと認識しております。

こうした環境下にあっても、これまでの将来を見据えた継続的な事業投資がベースとなり、全事業において力強いパフォーマンスを発揮しました。全社利益管理指標である為替一定ベース*²調整後営業利益*³、すなわち為替影響や特殊要因を除いた営業利益は、年間を通じてたばこ事業におけるプライシング効果が力強く発現し、サプライチェーンにおけるコスト上昇影響、HTS*⁴への投資加速化の影響を上回ったことに加え、医薬事業・加工食品事業における増益も後押しし、前年度比5.2%の増加となりました。この結果、2022年度に引き続き、売上収益*⁵、調整後営業利益、継続事業における営業利益及び当期利益*⁶にて、過去最高となる実績を実現しました。

また、為替影響を含む財務報告ベースの売上収益は、たばこ事業及び医薬事業における増収により、前年度比6.9%の増収となりました。一方、財務報告ベースの調整後営業利益については、主にロシア・ルーブルによるネガティブな為替影響が発現した結果、前年と概ね同水準となりました。

JT Group Purpose実現に向けた取組み

JT Group Purposeの実現に向け、年間を通じてさまざまな取組みを行ってまいりました。JT Group Purposeの浸透を図るべく、経営陣による拠点訪問や従業員との対話、社外ステークホルダーとのコミュニケーションを行い、Purpose実現に向けた行動を実践できるよう、土台を整えてきたところです。また、Purpose具現化の取組みを推進すべく設置しているコーポレートR&D組織D-LABにおいて、「心の豊かさ」を中心概念とした研究や未来の事業シーズの探索・創出を実施しており、本株主通信にも掲載しております呼吸するクッション「fufuly」、深呼吸の習慣化をサポートするツール「ston s」及び高品質クラフトノンアルコールドリンクのプラットフォーム「COLDRAW」等、徐々に活動の成果が表れているものもございます。

今後もお客様や社会の「心の豊かさ」に寄り添い、価値を提供し続けられるよう、長期的な視点で活動を継続してまいります。

2024年度 業績見込及び経営計画2024

2024年度業績見込について、たばこ事業におけるプライシング効果がけん引し、為替一定ベースcore revenue*⁷は前年度比3.9%の増収を見込んでいます。一方、為替一定ベース調整後営業利益は、たばこ事業において引き続きサプライチェーンコストの上昇及びRRP*⁸関連投資の増加を想定し、利益成長が限定的になることに加え、医薬事業において、2023年度に発生した導出品のライセンス契約に係る一時金収入の剥落等の影響による減益を見込むことから、前年同水準の7,280億円となる見通しです。また、財務報告ベースの調整後営業利益は、為替影響がネガティブに発現するとみて、前年度比5.5%の減益となる見通しです。当期利益は、営業利益の減益に加え、法人税負担の増加を見込むことから、前年度比5.7%の減益となる見通しです。

今般策定した経営計画2024においても、引き続き中長期にわたる持続的な利益成長、具体的には、為替一定ベース調整後営業利益の年平均mid to high single digit（一桁台半ばから後半の）成長の実現を目指してまいります。一方で、経営計画2024の期間中、すなわち2024年から2026年の3か年における為替一定ベース調整後営業利益は、今後最も成長が見込まれるHTSへの投資を強化することから、年平均mid single digit（一桁台半ばの）成長を見込んでおります。

たばこ事業：為替一定ベースの自社たばこ製品売上収益は、総販売数量の減少はあるものの、引き続きCombustibles*⁹におけるプライシング効果の発現に加え、RRP関連売上収益の増加により、前年度比4.5%の増加となる見込みです。為替一定ベースの調整後営業利益については、自社たばこ製品売上収益の増加が、Ploom Xの地理的拡大に向けた投資及びサプライ

チェーン関連コストの増加を上回り、前年度比2.0%の増加を見込んでおります。なお、為替影響について、ロシア・ルーブルを除く主要通貨は円安に推移することを見込んでおり、自社たばこ製品売上収益においてはポジティブに作用すると想定しております。一方、財務報告ベースの調整後営業利益における為替影響は、米ドル・ユーロ等のコストに関連する通貨及び一部新興国通貨の影響等によりネガティブに発現する見通しです。

医薬事業：売上収益は、鳥居薬品において売上収益の増収を見込むものの、2023年度に発生した導出品のライセンス契約に係る一時金収入の剥落及び、海外ロイヤリティ収入の減少を織り込み、前年度比64億円の減収となる見込みです。調整後営業利益は、売上収益の減収に加え、研究開発費の増加を見込むことから、前年度比134億円の減益となる見通しです。

加工食品事業：売上収益は、外食市況の更なる回復や価格改定に加え、冷食・常温事業における家庭用製品の増販施策及び調味料事業における海外販売の伸長を織り込み、前年度比21億円の増収を見込んでいます。調整後営業利益については、売上収益の伸長が、当年度も見込まれる原材料・物流費等の高騰を上回り、前年度比で2億円の増益を見込んでいます。

「JT Group Sustainability Targets」の策定について

4Sモデルの追求を経営理念とする当社グループは、「自然や社会が持続可能であってはいじめ、人の暮らし

や企業の活動も持続可能となる」という考えのもと、JT Group Purposeの具現化を通じて持続可能な自然や社会づくりに貢献すべく、昨年、サステナビリティ経営の根幹となる「JT Group Materiality（マテリアリティ）」を改定し、「自然との共生」「お客様の期待を超える価値創造」「人財への投資と成長機会の提供」「責任あるサプライチェーンマネジメント」「良質なガバナンス」という5つの課題群を特定いたしました。

また、改定したマテリアリティを踏まえ、JTグループとしての具体的な目標及び取組みについても検討を行い、この度、全25項目からなる「JT Group Sustainability Targets（サステナビリティターゲット）」を策定いたしました。サステナビリティターゲットにおいては、マテリアリティとのつながりを重視し、これまでの取組みを踏襲するだけでなく、新たな目標及び取組みも設定しています。

これらのサステナビリティ戦略の策定・運用には、取締役会が関与する体制を執っており、今般策定したサステナビリティターゲットにつきましても、その運用の中で定期的に点検し、進化させてまいります。当社グループは、社会とそこに存在する当社グループの事業の持続的な成長に向けて強くコミットし、新たなサステナビリティ戦略のもと、Purposeの具現化に向けて、「心の豊かさ」という価値を提供し続けてまいります。

「JT Group Sustainability Targets」についての詳細は、[こちら](#)をご覧ください。

株主還元

当社は資本市場における競争力ある水準として、配当性向75%を目安とし、強固な財務基盤を維持しつつ、中長期的に利益成長を実現することによって株主還元の充実・向上を目指してまいります。当社の1株当たり配当金は、過去10年において約2倍の成長を実現しており、今後も配当金を中心として株主還元を行なってまいります。

株主還元方針に則り、2023年度の年間配当金は、配当性向71.4%となる1株当たり194円をお支払いいたします。また、2024年度の年間配当金予想は、配当性向75.7%となる1株当たり194円を予定しております。

2023年度は厳しさを増す事業環境においても、将来の持続的な利益成長に資する投資を各事業において実行しつつ、たばこ事業におけるCombustiblesのプライシング、シェア伸張及びHTSの数量成長をけん引役として、為替一定ベースでは引き続き力強い利益成長を達成しました。今後とも経営理念である4Sモデルに則り適切な経営判断を下し、グループ一丸となって経営計画の達成に向けて進んでいくとともに、JT Group Purpose・各事業におけるPurposeの実現に向けた取組みを継続してまいります。

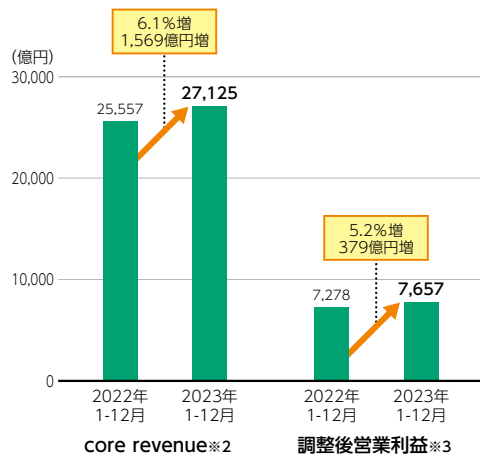
決算発表内容の詳細については、JTウェブサイト掲載の各種資料([こちら](#))をご覧ください。

(注記)

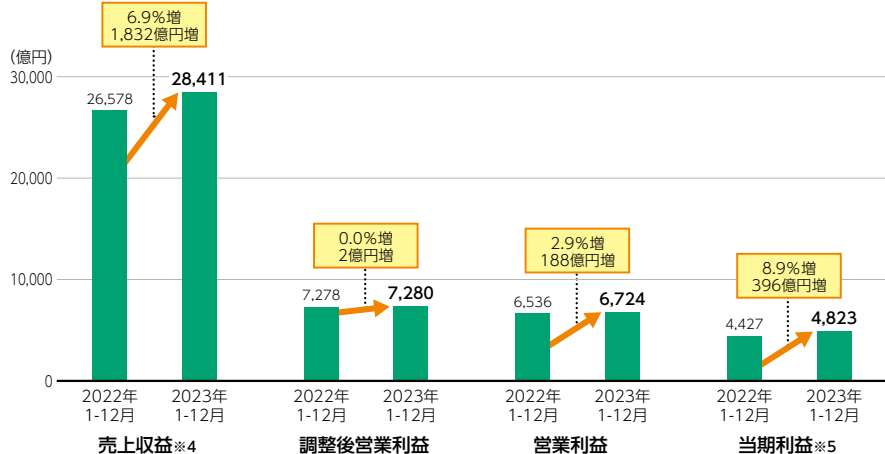
- *1 売上収益、調整後営業利益、継続事業における営業利益、継続事業における親会社の所有者に帰属する当期利益
- *2 前年同期の為替レートをを用いて換算／算出することにより、為替影響を除いた指標。ただし、為替一定ベースの実績は追加的に提供しているものであり、国際財務報告基準(IFRS)に基づく財務報告に代わるものではない
- *3 営業利益＋買収に伴い生じた無形資産に係る償却費＋調整項目(収益及び費用)*
*調整項目(収益及び費用)＝のれんの減損損失±リスストラクチャリング収益及び費用等
- *4 HTS(Heated tobacco sticks)：高温加熱型の加熱式たばこ
- *5 たばこ税及びその他の代理取引取扱高を除いた売上収益
- *6 親会社の所有者に帰属する当期利益
- *7 前年同期の為替レートをを用いて換算／算出することにより為替影響を除いた自社たばこ製品売上収益＋医薬事業・加工食品事業・その他の売上収益。ただし、為替一定ベースの実績は追加的に提供しているものであり、国際財務報告基準(IFRS)に基づく財務報告に代わるものではない
- *8 RRP(Reduced-Risk Products)：喫煙に伴う健康リスクを低減させる可能性のある製品
- *9 製造受託／水たばこ／加熱式たばこ／無煙たばこ／E-Vaporを除く可燃性のたばこ製品

2023年度 全社実績

為替一定ベース※1

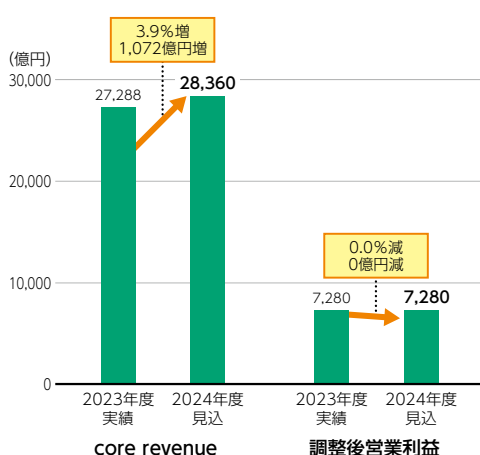


財務報告ベース

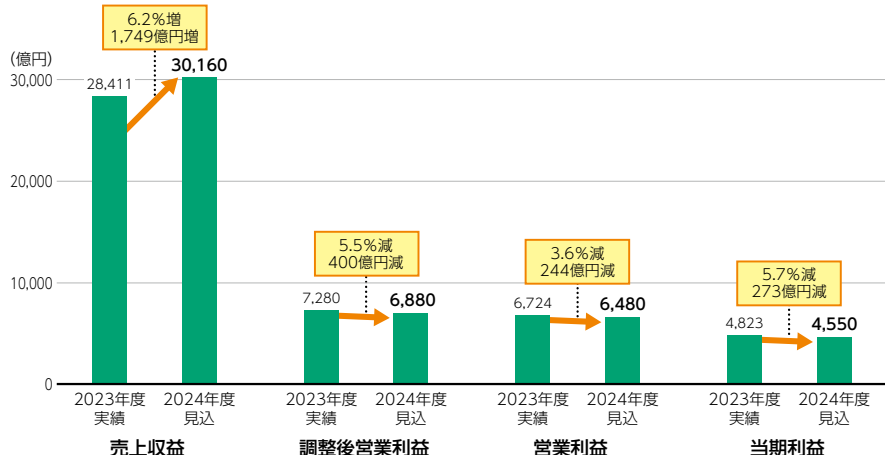


2024年度 全社見込

為替一定ベース

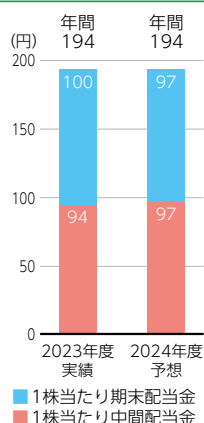


財務報告ベース

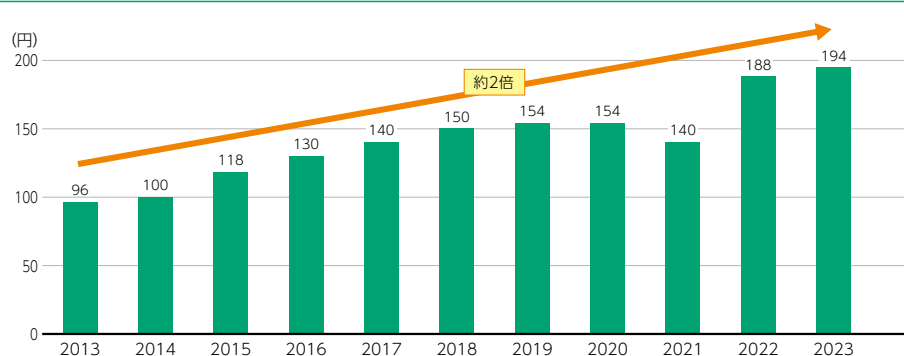


1株当たり配当金

直近実績及び予想



参考 1株当たり配当金の推移



※1 前年同期の為替レートをを用いて換算／算出することにより、為替影響を除いた指標。ただし、為替一定ベースの実績は追加的に提供しているものであり、国際財務報告基準(IFRS)に基づく財務報告に代わるものではない

※2 前年同期の為替レートをを用いて換算／算出することにより為替影響を除いた自社たばこ製品売上収益＋医薬事業・加工食品事業・その他の売上収益。ただし、為替一定ベースの実績は追加的に提供しているものであり、国際財務報告基準(IFRS)に基づく財務報告に代わるものではない

※3 営業利益＋買収に伴い生じた無形資産に係る償却費＋調整項目(収益及び費用)*

* 調整項目(収益及び費用)＝のれんの減損損失 ± リストラクチャリング収益及び費用等

※4 たばこ税及びその他の代理取引取扱高を除いた売上収益

※5 親会社の所有者に帰属する当期利益

たばこ事業

“Creating fulfilling moments. Creating a better future.”を事業Purposeとし、JTグループの中核事業として持続的な利益成長をけん引

今期のポイント

- 自社たばこ製品売上収益は、フィリピン・ロシア・英国をはじめ、多数の市場で力強いプライシング効果が発現し、増収
- 為替一定ベースの調整後営業利益は、ポジティブな単価差/商品構成影響が、ネガティブな数量差影響、インフレによるコスト増加及びPloom Xの地理的拡大を含む投資の増加を上回り、増益。一方、財務報告ベースの調整後営業利益については、ネガティブな為替影響により微減

業績サマリー

総販売数量※1

5,401 億本

前年同期比

+128億本↑
+2.4%↑

自社たばこ製品売上収益

2兆4,786 億円

前年同期比

+1,634億円↑
+7.1%↑

調整後営業利益

7,498 億円

前年同期比

-42億円↓
-0.6%↓

主要市場シェア

	2022年 1-12月	2023年 1-12月	増減
日本	42.4 %	42.8 %	+0.3 %pt
フィリピン	38.6 %	42.4 %	+3.9 %pt
台湾	48.9 %	50.3 %	+1.4 %pt
イタリア	23.0 %	23.2 %	+0.2 %pt
スペイン	28.0 %	27.9 %	-0.1 %pt
英国	44.6 %	43.7 %	-0.9 %pt
ルーマニア	27.5 %	27.4 %	-0.1 %pt
ロシア	36.6 %	37.4 %	+0.8 %pt
トルコ	27.8 %	26.9 %	-0.9 %pt

出典：市場シェアは、JTグループ内部データ等。市場シェアは2023年1月から12月までの平均ベース

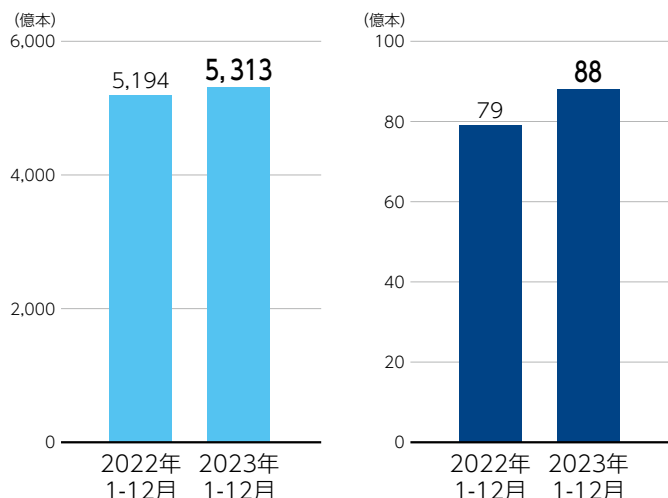
シェアは、Combustibles及びHeated Tobacco Products (HTP*)のたばこ総需要に基づいて計算

うち、フィリピン、台湾はCombustiblesのみ、トルコはRMC*2のみの市場シェア

*1 HTPたばこ葉を使用し、たばこ葉を燃焼させずに、加熱等によって発生するたばこペーパーを愉しむ製品

*2 紙巻たばこ (Ready-Made-Cigarettes)

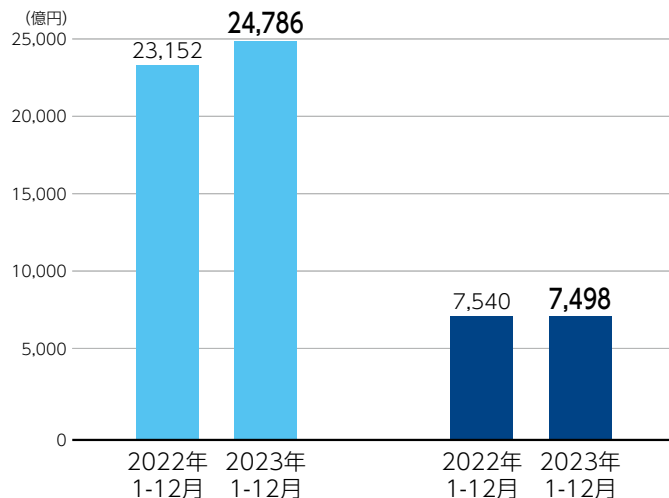
販売数量実績



Combustibles販売数量※2

RRP販売数量※3

財務実績



自社たばこ製品売上収益※4

調整後営業利益

※1 水たばこ/製造受託/RRPデバイス及び関連アクセサリを除くたばこ製品の販売数量

※2 水たばこ/E-Vapor/無煙たばこ (Snus・ニコチンパウチ)/加熱式たばこ/製造受託を除くたばこ製品の販売数量

※3 Reduced-Risk Products (RRP)の販売本数 (RMCとして換算)。デバイス/関連アクセサリ等は含まない

※4 物流事業/製造受託等を除く売上収益

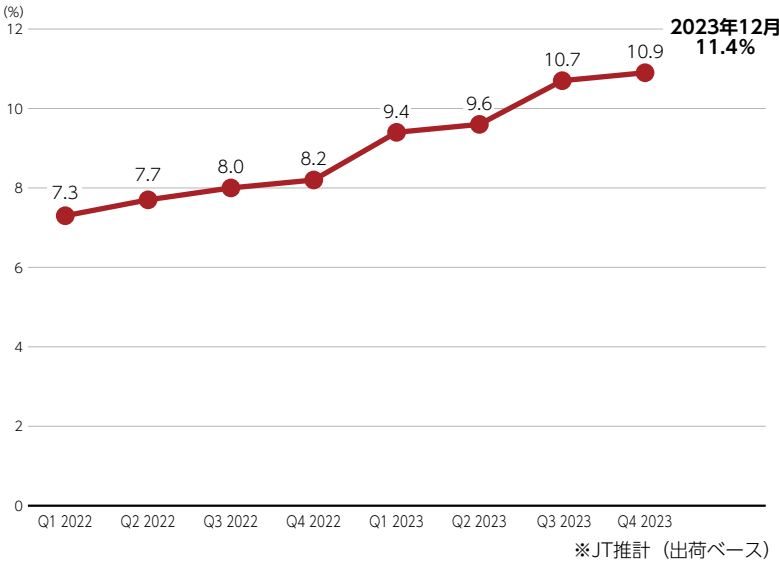
科目	2022年 1-12月	2023年 1-12月	増減率
Asia			
自社たばこ製品売上収益	8,049	7,969	- 1.0%
調整後営業利益	2,675	2,458	- 8.1%
Western Europe			
自社たばこ製品売上収益	5,388	6,033	+12.0%
調整後営業利益	2,193	2,314	+5.5%
EMA			
自社たばこ製品売上収益	9,715	10,785	+11.0%
調整後営業利益	2,671	2,725	+2.0%

※ JTグループのたばこ事業をより深く理解していただくために、同事業を3地域のクラスター（Asiaは日本を含むアジア全域、Western Europeは西欧地域、EMAは東欧、中近東、アフリカ、トルコ、南北アメリカ大陸及びGlobal Travel Retail*を含む）に区分けしたもの

*従来の国内たばこ事業と海外たばこ事業の免税市場を統合した呼称

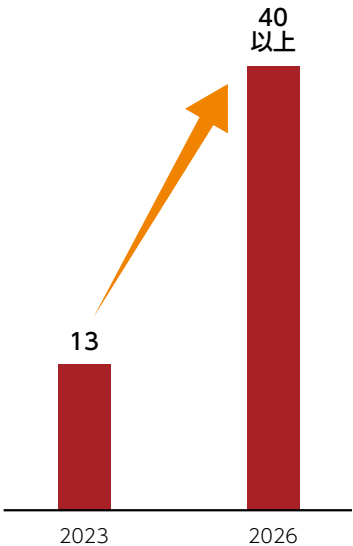
日本市場におけるPloom の
HTSカテゴリ内シェア

- 競争が激化するなかでも着実に伸張
- 2023年12月単月では、11.4%に到達



Ploom Xの展開市場数

- 2023年度末の展開市場数は13市場に到達
- 2025年度末には世界全体のHTS総需要の約80%をカバーする見込みであり、2026年度末までに40以上の市場で展開予定



医薬事業

「科学、技術、人財を大切にし、患者様の健康に貢献します。」を事業Purposeとし、次世代戦略品の研究開発及び各製品の価値最大化による持続的利益成長を志向

今期のポイント

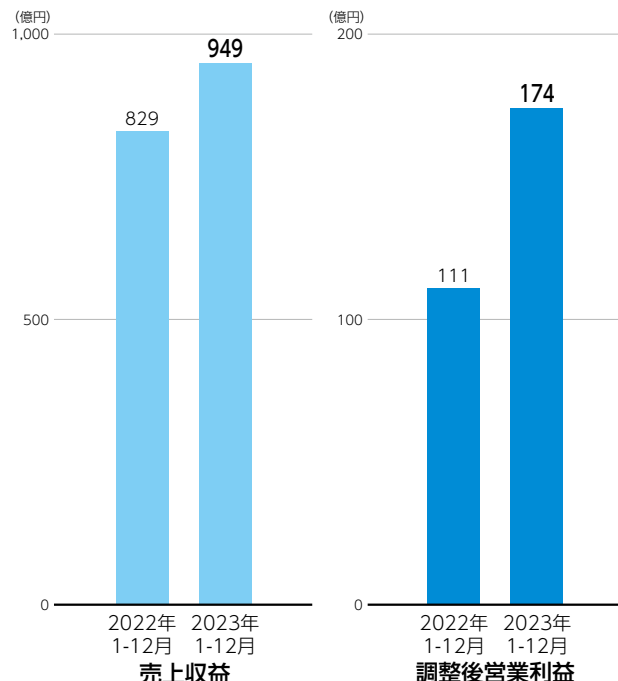
●売上収益は、導出品のライセンス契約に係る一時金収入及び鳥居薬品における皮膚疾患領域・アレルギー領域の売上伸長により増収。調整後営業利益は、研究開発費の増加影響があったものの、売上収益の増収により増益

業績サマリー

売上収益
949億円
前年同期比
+120億円↑
+14.4%↑

調整後営業利益
174億円
前年同期比
+63億円↑
+56.2%↑

財務実績



加工食品事業

「食事をうれしく、食卓をたのしく。」を事業Purposeとし、収益性の高い売上収益成長による持続的利益成長を志向

今期のポイント

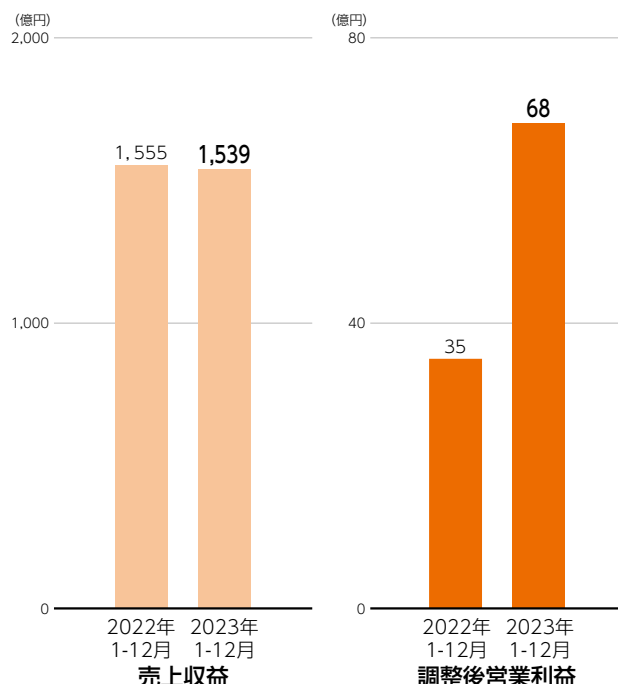
●売上収益は、冷食・常温事業において、価格改定に加え、業務用製品の売上収益伸長があるものの、ベーカリー事業譲渡に伴う売上収益の剥落により、前年同期と同水準。調整後営業利益は、価格改定効果、業務用製品の売上収益伸長効果が、原材料費等の大幅な高騰を上回り、増益

業績サマリー

売上収益
1,539億円
前年同期比
-17億円↓
-1.1%↓

調整後営業利益
68億円
前年同期比
+33億円↑
+95.2%↑

財務実績



Ploomシリーズ最高温度の加熱性能 「Ploom X ADVANCED」が登場！ 喫味の満足度はさらにアップ



NEWモデル。
進化したのは、1本の愉しみ。

ploom X
ADVANCED

NEW model
POWER HEATFLOW 自動加熱機能*

TRULY
その手に、個性を
UNIQUE

※画像はイメージです。*自動加熱機能が失われても、製品自体の性能には影響を及ぼしません(初期不良を除き保証対象外)。

JTは、加熱式たばこ用デバイス「Ploom X ADVANCED」の全国発売を2023年11月21日に開始しました。「Ploom X」誕生から約2年、満を持して新モデルの登場です。

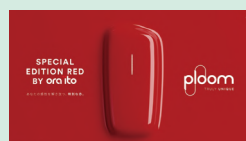
「Ploom X ADVANCED」は、従来の内部機構を見直してブラッシュアップし、新しいヒーターユニットを開発。たばこスティックのパフォーマンスを最大限に引き出す加熱温度である約320℃へと上昇させた新加熱技術「POWER HEATFLOW」を搭載し、吸いごたえと味わいをより一層お愉しみいただけます。

また、「Ploom X」で評価されたシンプルな操作性をさらに進化させた自動加熱機能*1を搭載。喫煙時に加熱ボタンを押すことなく、たばこスティックを差し込むだけで

加熱が始まるスムーズな操作性を実現しています。

「Ploom X」の良さはそのままに、機能面・性能面での進化を遂げてデバイスとしての魅力を増した「Ploom X ADVANCED」が「進化した1本の愉しみ」をお届けします。

限定デバイス



Ora Ito Red
3月1日発売



Deep Sky Blue
3月18日発売

担当者の声

JT GLOBAL TOBACCO BUSINESS MARKETING RRP PRODUCT & BRAND/井上 開斗

「Ploom X ADVANCED」は、「Ploom X」でご支持いただいたデザインや操作性を継承しながら、加熱式たばこ全般における「吸いごたえ・味わいの物足りなさ問題」に真っ向から向き合った新デバイスです。発売前に実施した調査においては、92%*2の加熱式たばこユーザーに「満足を実感した」とご回答いただいております。自信をもってお薦めできる商品であると考えております。実際に、発売直後から多くのお客様にお買い求めいただいております。非常に良好なスタートを切ることができました。引き続き、一人でも多くのお客様に手に取っていただけるよう販売促進に取り組んでまいります。



*1 使用条件によっては、スライドカバーを開けてから電池残量表示LEDが消える前にスティックを挿入した場合、自動加熱機能が作動しないことがあります。その場合はボタンエリアを長押しすることで加熱が開始します。また、自動加熱機能が失われても、製品自体の性能には影響を及ぼしません(初期不良を除き保証対象外)

*2 Ploom X ADVANCEDをお試しいただき、各項目に対して「実感した」「やや実感した」「実感しなかった」の3択で聴取し、「実感した」「やや実感した」と回答した方の割合
調査概要：25歳以上の加熱式たばこユーザー111名を対象とする調査を、2023年6月3日及び6月4日に実施(調査委託先：電通マクロミルインサイト)

※ このページは株主の皆様にも事業を説明する目的で作成されたものです。お客様へのたばこの販売促進もしくは喫煙を促す目的ではありません

具材の満足度が高い「まるぐ」シリーズに 新商品が仲間入り！

テーブルマーク株式会社では、本格的なお店の味をご家庭で召し上がっていただける有名店監修の冷凍具付ラーメンの新規フレーバーを、3月1日より全国で発売しました。

たかはし監修

まるぐ 焼きあご塩ラーメン

鍋調理 レンジ調理 1食入 255g

名店「焼きあご塩らーめんたかはし」の焼きあご塩らーめんの味わいを再現。監修店の麺に近いもちもち太ウェーブ麺と、たかはし監修のこだわりのトッピング具材(豚チャーシュー2種、穂先たけのこ、ほうれん草)を、鶏ガラと豚ガラの深みのあるあごだしスープと一緒に楽しみください。



担当者の声

テーブルマーク マーケティング戦略部 麺カテゴリ／戸田 菜々美

大好評の“具材の満足度の高いラーメン”「まるぐ」シリーズ第3弾です。以前はあまり知られていなかった「焼きあご」の存在を世の中に広げた名店「焼きあご塩らーめんたかはし」に監修していただき、お客様の満足を実現するための「具材」、独自製法による本格的な「スープ」、風味豊かな「熟成麺」にこだわり、お客様に喜んでいただける一品となっております。



麵屋武蔵監修 旨まぜそば大盛り

レンジ調理 1食入 360g

名店「麵屋武蔵」監修の旨まぜそばが新登場！味噌と濃口醤油をベースに魚介と豚の旨みが広がります。



海鮮チヂミ

レンジ調理 フライパン調理 1食入 230g

いかとえびをふんだんに使用し、海鮮の存在感抜群！6種具材で、具だくさんの海鮮チヂミ。小麦粉の代わりに、米粉を使用し、もちもち食感に仕上げました。



国産こしひかり10食

レンジ調理 熱湯調理 10食入 1,800g(1食180g)

「加圧加熱」と「蒸気炊飯」の二段階で加熱することで、外はふっくら、中はもちもちとした炊き上がり。炊きたてのような香りが食欲をそそります。

おかげさまで冷凍うどん発売50周年を迎えました

1974年、香川県の名物「さぬきうどん」のおいしさを全国に届けたいという想いから、テーブルマーク株式会社(1974年時点は「株式会社加ト吉」)は「冷凍うどん」という新しいジャンルに挑戦し、うどん職人の技を工場で再現することを目指しました。

発売当初は販売中止に追い込まれたこともありますが、あきらめることなく挑戦を続けて半世紀。現在では年間約6億食を製造しています。「冷凍なんて」と言われたうどんは、「冷凍だから」と愛していただける商品となりました。

長年にわたる皆様のご支援に感謝申し上げるとともに、今後は「冷凍麺のテーブルマーク」への進化を目指してまいりますので、今後も一層のご支援、ご愛顧を賜りますようお願いいたします。



テーブルマークのオンラインショップ「おいしさ直送便」は[こちら](#)

呼吸を意識し、心を豊かにする良質な休憩を 呼吸するクッション「fufuly」、深呼吸の習慣化をサポートするツール「ston s」

JTのコーポレートR&D組織であり、長期視点で、JTグループのまだ見ぬ「心の豊かさ（Delightful Moment）」を研究・探索・創造する組織D-LAB（ディーラボ）は、JT Group Purpose「心の豊かさを、もっと。」の具現化に向けた取組みの一つとして、日常生活の中での「休み方」の重要性に着目し、呼吸をテーマとした研究、製品開発を行いました。

・呼吸するクッション「fufuly（フフリー）」

「fufuly」は抱きかかえて使う呼吸誘導型のロボットクッションです。「呼吸の引き込み現象^{*1}」に注目し、まるで呼吸をするように膨らんだり縮んだりするテクノロジーを活用しています。このクッションはJT、ユカイ工学株式会社、株式会社博報堂が開発し、商品化を目指すプロジェクトから生まれました。参考にした研究^{*2}では、実験装置の動きに合わせて、呼吸のリズムと深さが誘導されることが確認されています。

ご購入方法等、詳細につきましては[こちら](#)をご覧ください。



^{*1} 動物が呼吸するとき、触れ合っている仲間の呼吸につられるという現象

^{*2} Yuki Ban, Hiroyuki Karasawa, Rui Fukui, Shin'ichi Warisawa: Development of a Cushion-Shaped Device to Induce Respiratory Rhythm and Depth for Enhanced Relaxation and Improved Cognition. Frontiers Comput. Sci. 4: 770701 (2022)

・深呼吸の習慣化をサポートするツール「ston s（ストン エス）」

「ston s^{*3}」は、吸い込むことでカートリッジ内のリキッドが熱せられ、発生する蒸気からフレーバーを楽しむことができると共にカフェインやGABAを吸引でき、深呼吸の習慣化をサポートするツールです。充電不要、スイッチもなく、お気軽にお使いいただけて、新しい休憩体験をもたらします。約400回の吸引^{*4}が可能なこの商品は、「一息でひと休みをあなたの力に」を目的に、JTの連結会社であるBREATHER株式会社が独自の技術を用いて開発、販売しています。

ご購入方法等、詳細につきましては[こちら](#)をご覧ください。



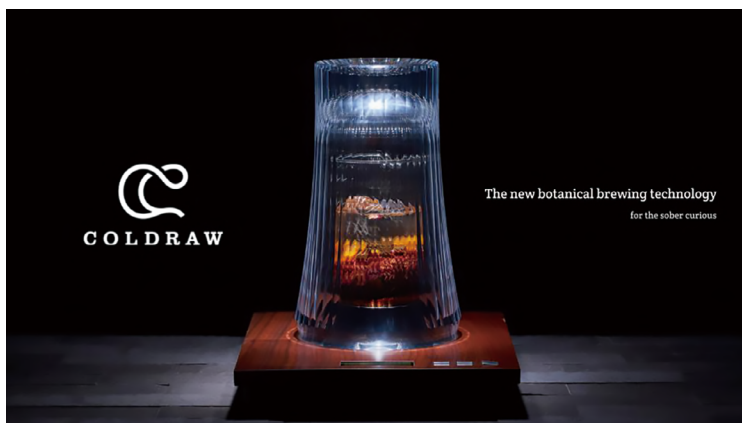
^{*3} 「ston s（ストン エス）」はニコチンやタールを含まないデバイスです

^{*4} 吸引回数は吸い方により異なります

JTが参画する「COLDRAW」 CESイノベーションアワード2024を受賞

JTのコーポレートR&D組織であるD-LABがsPods株式会社等の外部パートナーと開発を進める「COLDRAW (コールドロー)」が2024年1月にアメリカで開催された家電製品中心の見本市「CES (コンシューマー・エレクトロニクス・ショー)」のイノベーションアワードを受賞いたしました。「COLDRAW」は、茶葉やハーブ等の植物素材に注目し、その本来の味、色、甘味を10分程度でバランスよく抽出することを特徴とした、高品質クラフトノンアルコールドリンクのプラットフォームです。本取組みは、JT Group Purpose「心の豊かさを、もっと。」の具現化に向け、お客様一人ひとりの心を豊かにしたいとの想いから実施しているものです。

製品等の詳細については[こちら](#)をご覧ください。



林野庁主催の 「森林×脱炭素チャレンジ2023」で優秀賞を受賞 「JTの森」におけるCO₂吸収量、森林整備の取組みを評価

JTは、林野庁が主催する「森林×脱炭素チャレンジ2023」の「森林づくり部門」において、優秀賞（林野庁長官賞）を初受賞しました。「森林×脱炭素チャレンジ」は、森林づくり活動等を通じて、脱炭素社会の実現に貢献している企業等の取組みを顕彰する、林野庁が2022年に創設した制度です。この度の受賞では、全国9カ所の「JTの森」における、総合的な取組み、令和3年度及び令和4年度の間に取り組んだ森林整備、そして年間CO₂吸収量（413t）が脱炭素に貢献したとして高い評価をいただきました。「JTの森」に関する詳細は[こちら](#)もご覧ください。

今後も、健全で豊かな自然環境が将来の世代に引き継がれるよう、より良い環境の創造に向けて積極的な取組みを進めてまいります。



世界的なESG株価指数である 「Dow Jones Sustainability Asia Pacific Index」の 構成銘柄に10年連続で選定

JTは、世界的なESG株価指数である「Dow Jones Sustainability Asia Pacific Index」の構成銘柄に、10年連続で選定されました。

本指数は、企業の持続可能性（サステナビリティ）をガバナンス・経済、環境、社会の3つの側面から評価する国際的なESG株価指数として運用されています。DJSI選定基準のCSA（コーポレートサステナビリティ評価）は、ESG各分野における最新の動向や議論を踏まえた、総合的な調査と考えています。国際的かつ信頼性の高い外部調査に参加することは、JTのサステナビリティへの取り組みと開示を客観的に評価する機会を得ることにつながります。10年連続の選定は、バリューチェーンを横断する社会及び環境課題へ真摯に取り組んできた結果が高く評価されたものと考えています。

Member of
**Dow Jones
Sustainability Indices**
Powered by the S&P Global CSA

2023年度の気候変動及び 水セキュリティへの取り組みにおいて、 CDPの最高評価「Aリスト」に選定

JTは、国際的な環境NGOであるCDPより、気候変動と水セキュリティへの対応と戦略において優れた取り組みを行う企業として、最高評価である「Aリスト」に選定されました。当社の「Aリスト」選定は、気候変動で6回目（5年連続）、水セキュリティで4回目となります。

JTグループは、4Sモデルの追求を経営理念とし、JT Group Purposeの具現化を通じて持続可能な自然や社会づくりに貢献していくことを目指しています。昨年公表したJT Group Materiality（重要課題）に紐づくターゲットとして、新たにJT Group Sustainability Targetsを策定いたしました。JT Group Materialityにおける「自然との共生」においては、「温室効果ガス排出量の削減」や「責任ある水資源マネジメント」等のターゲットを掲げ、我々の事業活動が自然環境に与える影響を改善し、自然と人や企業の健全な関係性を保全していくことを目指しております。これからも、自然環境に対する責任を果たすことで、社会の持続的な発展に貢献し、ステークホルダーの皆様からの信頼に応えてまいります。



JTグループのサステナビリティの取り組みの詳細につきましては、[こちら](#)よりご覧いただけます。今後も社会とJTグループが共に持続的に成長できるよう、取り組みを着実に進めてまいります。

LGBTQ+に関する取組みを評価する 「PRIDE指標2023」において 8年連続で最高位「ゴールド」を受賞

JTは、2023年度に任意団体「work with Pride」が主催する「PRIDE指標2023」において、最高位の「ゴールド」を受賞しました。「ゴールド」の受賞は、2016年より8年連続となります。

これまでJTは、社内のイントラネット上でのLGBTQ+に関する情報ページの常設等を通じた意識啓発や、「パートナーシップ認定制度」導入といった社内制度の見直しを含め、多様な価値観を認め合える風土づくりを行ってきました。また、全国にある拠点においても、各地で開催されるLGBTQ+イベントへの参加等、本社主導だけではなく、自主的な取組みを行うフェーズに発展しています。これらの取組みを含め、LGBTQ+に関する継続的な取組みが評価され、今回の「ゴールド」受賞につながったと考えています。

グローバルに事業を行い、100以上の国籍の従業員が働いているJTグループでは、差別がなく、誰もが個性を発揮できる職場づくりは不可欠です。今後もJTは、多様な人財の活躍による持続的成長に向けて、多様化の推進に積極的に取り組んでまいります。

work with Pride



株主様向けオンライン会社説明会開催のご案内

当社の経営戦略や事業活動をご理解いただく機会として、多くの株主様から開催のご要望を頂戴しておりますオンライン会社説明会（説明者：執行役員 Chief Financial Officer、Corporate Communications 担当 古川博政）を2024年6月24日（月）19時より開催予定です。詳細につきましては下記ウェブサイトをご確認ください。多くの株主様のご参加をお待ちしております。

IR Dialog JTオンライン会社説明会

<https://www.link-cc.co.jp/dialog/news/2914001.html>



執行役員
Chief Financial Officer、
Corporate Communications担当
古川 博政

配当金に関するご案内

当社の配当金は、通常年2回（期末配当金・中間配当金）お支払いしております。

●期末配当金（3月下旬にお支払い開始）

定時株主総会の決議後、12月31日の最終の株主名簿に登録された株主様にお支払いします。

●中間配当金（9月上旬にお支払い開始）

取締役会の決議後、6月30日の最終の株主名簿に登録された株主様にお支払いします。

配当金のお受け取りは、「口座振込」が便利です！

「口座振込」をご選択いただきますと、ご指定の銀行口座や証券会社の口座に直接振り込まれますので、安全かつ確実にお受け取りいただけます。ぜひご検討くださいますよう、お願い申し上げます。

また、NISA口座で保有されている株式の配当金を非課税とするには、「株式数比例配分方式」を選択していただく必要がございますので、ご注意ください。

配当金のお受け取り方法の確認・変更については、お取引のある証券会社へお問い合わせください。

配当金のお受け取り方法

銀行口座で受け取る

■ 個別銘柄指定方式

個別銘柄（保有する各株式）ごとに銀行等の預金口座を指定して受け取る方式



■ 登録配当金受領口座方式

保有する株式の配当金を一括して銀行等の預金口座で受け取る方式



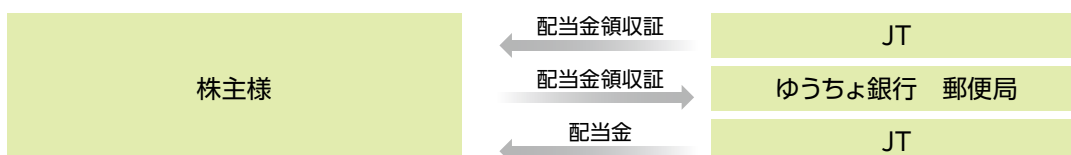
証券口座で受け取る

■ 株式数比例配分方式

証券会社の取引口座で受け取る方式（複数の証券会社に残高がある場合は、残高に応じて配分）



現金受取



2023年株主様WEBアンケート結果について

2023年に実施しましたWEBアンケートについて、多くの株主様からご回答をいただきました。ご協力いただき、誠にありがとうございました。アンケート結果の一部をご報告させていただきます。

調査概要

実施期間：2023年8月31日～9月22日

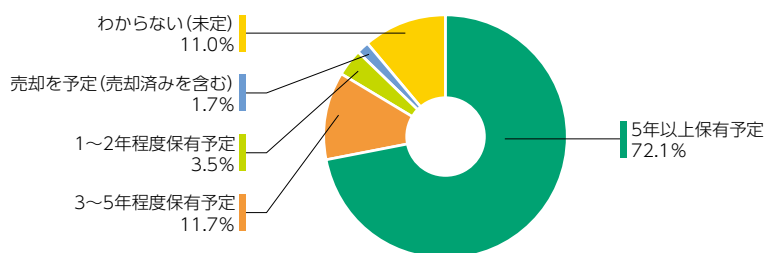
調査対象：2023年6月末時点でJT株式1単位（100株）以上お持ちの株主様

対象者数：681,119名

回答件数：62,126件（回答率9.1%）

Q 当社株式の今後の保有方針をお聞かせください。

多くの株主様が継続保有をご検討いただいております。
当社の株主還元や業績の安定性をご評価いただくコメントを頂戴しております。



お寄せいただいたコメント（抜粋）

- ・株主還元を力を入れており、配当利回りが高いため、長期保有予定です。
- ・安心安定の企業と認識しているので、長期保有するつもりです。
- ・たばこ事業の先行きが不透明なので、他の分野での成長も期待したい。

Q 当社に関して、もっとお知りになりたい情報をお聞かせください。

「株主還元方針」「中長期的な経営戦略」について高い関心をお寄せいただいております。



※その他の選択肢は省略しております

お寄せいただいたコメント（抜粋）

- ・高い配当性向を今後どのように維持していくのか知りたい。
- ・たばこ事業の今後の展望について、分かりやすく伝えてほしい。
- ・今後の事業ポートフォリオ等、長期的な会社の将来ビジョンを知りたい。

Q 今後、力を入れてほしいIR活動をお聞かせください。

当社ホームページでの発信等、インターネットによる情報発信充実のご要望を多く頂戴しております。



※その他の選択肢は省略しております

お寄せいただいたコメント（抜粋）

- ・スマホやSNSで気軽に情報を入手できる環境を整えてほしい。
- ・ホームページが分かりづらい。もっとユーザーフレンドリーなデザインにしてほしい。
- ・ウェブでの情報開示強化の流れは理解するが、重要な情報は紙面でも送ってほしい。

なお、当社では、このたびの株主様からのご意見をもとに、当社ホームページ「個人投資家の皆様へ」ページ（[こちら](#)）のリニューアルを実施しました。各種情報について内容を充実させるとともに、当社の事業概要のご説明等、新たなコンテンツも掲載しております。

また、本取組みが評価され、大和インベスター・リレーションズ株式会社（以下、大和IR）が主催する「大和インターネットIR表彰2023」において、「優良賞」を受賞いたしました。「大和インターネットIR表彰」は、大和IRの“企業IRはインターネットに包摂される”という「5T&C*」の考え方のもと、上場企業を対象に独自の基準で、各社のウェブサイトの株主・投資家向けページを調査・評価するものです。今回は、2023年6月1日時点の上場企業4,048社のうち168社（最優秀賞9社、優秀賞15社、優良賞144社）が選定されました。



*Timely(適時性)、Transparent(透明性)、Traceable(追跡可能性)、Trustworthy(信頼性)、Total(包括性) + Communication(双方向性)

当社では、今後も株主・投資家の皆様から頂戴する貴重なご意見をもとに、当社グループへのご理解を深めていただけるよう、情報開示の充実化に取り組んでまいります。

引き続きご理解・ご支援賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

JTバレーボールチーム JTサンダーズ広島／JTマーヴェラス

国内トップリーグ「V.LEAGUE」所属のJTバレーボールチーム。勝利へのひたむきな姿勢や迫力あるプレーを通じて「最大の感動」をお届けしています。



我ら、広島排球男子

JTサンダーズ広島



JTサンダーズ広島の詳細は[こちら](#)



JT MARVELOUS

JTマーヴェラスの詳細は[こちら](#)

JTバレーボールチームのグッズは[こちら](#)

将棋日本シリーズ JTプロ公式戦／テーブルマークこども大会

こどもから大人まで誰もが、将棋を自分らしく自由にとことん楽しめる。みる・指す・ふれあう将棋日本シリーズだから体験できる心の豊かさを育む特別な「とき」がここにはあります。

JTプロ公式戦



2023年「JTプロ公式戦」の結果は[こちら](#)

TableMark こども大会



「テーブルマークこども大会」の詳細は[こちら](#)

ゴルフ日本シリーズJTカップ



「ゴルフ日本シリーズJTカップ」は、厳しい出場資格をクリアしたトッププレーヤー30名が出場する国内男子ゴルフメジャー最終戦です。60回目の節目を迎えた昨年の大会では、蟬川泰果選手が激闘を制し、史上最年少で大会初優勝を飾りました。

会場／東京よみうりカントリークラブ 出場総人数／30名



蟬川泰果選手

「ゴルフ日本シリーズJTカップ」第60回大会（2023年）の結果は[こちら](#)

連結財務諸表

(注) 記載金額は、百万円未満を四捨五入して表示しております

連結財政状態計算書

(単位：百万円)

科目	2022年 12月末	2023年 12月末	増減金額
資産			
流動資産合計	2,723,591	3,259,561	535,970
非流動資産合計	3,824,487	4,022,536	198,049
有形固定資産	775,957	821,499	45,543
のれん	2,446,063	2,616,440	170,377
無形資産	246,442	206,982	△39,460
投資不動産	9,495	9,338	△156
退職給付に係る資産	57,792	65,856	8,064
持分法で会計処理されている投資	56,943	56,726	△217
その他の金融資産	140,366	156,316	15,950
繰延税金資産	91,430	89,379	△2,052
資産合計	6,548,078	7,282,097	734,018

【ご参考】

資産合計

現金及び現金同等物の増加、為替影響によるのれんの増加等により増加

(単位：百万円)

科目	2022年 12月末	2023年 12月末	増減金額
負債及び資本			
負債			
流動負債合計	1,562,664	1,927,276	364,612
非流動負債合計	1,368,653	1,442,329	73,676
負債合計	2,931,317	3,369,605	438,288
資本			
親会社の所有者に帰属する持分	3,540,435	3,830,156	289,721
資本金	100,000	100,000	—
資本剰余金	736,400	736,478	78
自己株式	△490,183	△489,194	989
その他の資本の構成要素	104,309	290,550	186,240
利益剰余金	3,089,909	3,192,323	102,413
非支配持分	76,326	82,336	6,010
資本合計	3,616,761	3,912,491	295,731
負債及び資本合計	6,548,078	7,282,097	734,018

負債合計

借入金及び未払たばこ税の増加等により増加

資本合計

配当金の支払いがあったものの、在外営業活動体の換算差額の増加、親会社の所有者に帰属する当期利益の計上による利益剰余金の増加等により増加

連結損益計算書

(単位：百万円)

科目	2022年 1-12月	2023年 1-12月	増減金額
売上収益	2,657,832	2,841,077	183,245
売上原価	△1,090,989	△1,225,974	△134,984
売上総利益	1,566,843	1,615,103	48,261
その他の営業収益	20,262	30,027	9,766
持分法による投資利益	8,009	8,332	323
販売費及び一般管理費等	△941,538	△981,052	△39,514
調整後営業利益※	727,779	728,002	223
営業利益	653,575	672,410	18,836
金融収益	31,147	44,414	13,266
金融費用	△91,272	△95,222	△3,951
税引前利益	593,450	621,601	28,151
法人所得税費用	△149,277	△136,292	12,985
当期利益	444,174	485,310	41,136
当期利益の帰属			
親会社の所有者	442,716	482,288	39,572
非支配持分	1,458	3,021	1,564
当期利益	444,174	485,310	41,136

※調整後営業利益＝営業利益＋買収に伴い生じた無形資産に係る償却費＋調整項目(収益及び費用)*

*調整項目(収益及び費用)＝のれんの減損損失±ストラクチャリング収益及び費用等

【ご参考】

営業活動による キャッシュ・フロー

法人税の支払い、棚卸資産の増加及び前払たばこ税の増加があったものの、主にたばこ事業による安定したキャッシュ・フローの創出等により収入増加

投資活動による キャッシュ・フロー

有形固定資産、無形資産及び投資の取得による支出により支出増加

財務活動による キャッシュ・フロー

配当金の支払い及び社債の償還による支出があったものの、短期借入金の増加があったこと等により支出減少

連結包括利益計算書

(単位：百万円)

科目	2022年 1-12月	2023年 1-12月	増減金額
当期利益	444,174	485,310	41,136
税引後その他の包括利益	554,055	182,908	△371,148
当期包括利益	998,229	668,217	△330,012
当期包括利益の帰属			
親会社の所有者	996,687	660,663	△336,024
非支配持分	1,542	7,554	6,012
当期包括利益	998,229	668,217	△330,012

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

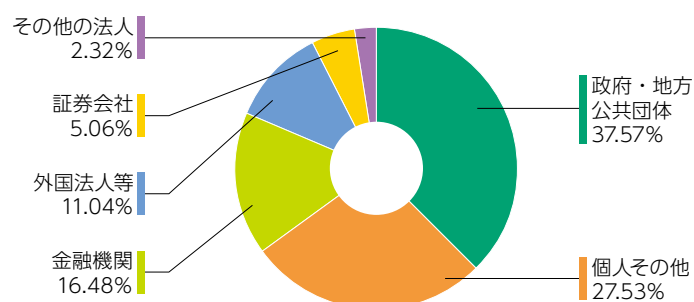
科目	2022年 1-12月	2023年 1-12月	増減金額
営業活動によるキャッシュ・フロー	483,799	567,014	83,216
投資活動によるキャッシュ・フロー	△101,822	△126,129	△24,308
財務活動によるキャッシュ・フロー	△306,176	△270,500	35,676
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	75,801	170,385	94,584
現金及び現金同等物の期首残高	721,731	866,885	145,154
現金及び現金同等物に係る為替変動による影響	69,353	2,935	△66,418
現金及び現金同等物の期末残高	866,885	1,040,206	173,320

会社概要

商 号	日本たばこ産業株式会社	設 立	1985年(昭和60年)4月1日
本社所在地	〒105-6927 東京都港区虎ノ門四丁目1番1号 TEL.(03)6636-2914(代表) https://www.jti.co.jp/	資 本 金	1,000億円

株式の状況 2023年12月31日現在

所有者別構成比（自己株式を除く）



発行可能株式総数 8,000,000,000株

発行済株式の総数 2,000,000,000株
(自己株式 224,692,028株)

株主数 835,441名

株主メモ

決算期 12月31日 定時株主総会 3月

期末配当金支払株主確定日 12月31日 中間配当金支払株主確定日 6月30日 1単元の株式数 100株

公告の方法 電子公告
当社ホームページ (<https://www.jti.co.jp/>) に掲載
※やむを得ない事由により、電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載

株主名簿管理人・ 三菱UFJ信託銀行株式会社

特別口座管理機関 ■事務取扱場所

東京都千代田区丸の内1-4-5
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

■お問い合わせ先

東京都府中市日鋼町1-1
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
☎0120-232-711 (平日9:00~17:00)

■郵便物送付先

〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

株式に係るお手続き等については、下記当社ホームページをご覧ください。

- 「株式諸手続き」 ページ [こちら](#)

役員 2024年3月22日現在

■取締役

取締役会長	岩井 睦雄
取締役副会長	岡本 薫明
代表取締役社長	寺島 正道
代表取締役副社長	中野 恵
代表取締役副社長	嶋吉 耕史
取締役	長嶋 由紀子*
取締役	木寺 昌人*
取締役	庄司 哲也*
取締役	山科 裕子*
取締役	朝倉 研二*

※取締役 長嶋 由紀子、木寺 昌人、庄司 哲也、山科 裕子及び朝倉 研二は、会社法第2条第15号に定める社外取締役です

■監査役

常勤監査役	柏倉 秀亮
常勤監査役	橋本 努
常勤監査役	谷内 繁*
監査役	稲田 伸夫*
監査役	武石 恵美子*

※監査役 谷内 繁、稲田 伸夫及び武石 恵美子は、会社法第2条第16号に定める社外監査役です

■執行役員

社長	(最高経営責任者、たばこ事業本部長)	寺島 正道
副社長	(財務・Corporate Communications・ビジネスディベロップメント・D-LAB 担当)	中野 恵
副社長	(コーポレート・サステナビリティマネジメント・医薬事業・食品事業 担当)	嶋吉 耕史
専務執行役員	(国内たばこ事業 CEO)	福地 淳一
執行役員	(国内たばこ事業 パフォーマンス&インテグレーション 担当)	Daniel Torras
執行役員	(国内たばこ事業 渉外 担当)	藤原 卓
執行役員	(国内たばこ事業 製造 担当)	植澤 伸浩
執行役員	(国内たばこ事業 マーケティング 担当)	Igor Dzaja
執行役員	(国内たばこ事業 セールス 担当)	乾 一幸
執行役員	(医薬事業部長)	藤本 宗明
執行役員	(医薬事業部 医薬総合研究所長)	角谷 真
執行役員	(食品事業 担当)	中込 敬介
執行役員	(General Counsel)	廣瀬 修
執行役員	(経営戦略 担当)	福田 浩之
執行役員	(コーポレートガバナンス・コンプライアンス 担当)	小倉 健資
執行役員	(Chief Sustainability Officer)	妹川 久人
執行役員	(Chief Financial Officer、Corporate Communications 担当)	古川 博政
執行役員	(People & Culture 担当)	見島 昌行
執行役員	(IT 担当)	下林 央
執行役員	(D-LAB 担当)	大瀧 裕樹

株価の推移 1994年10月27日上場～2023年12月 当社株価（東証終値、月間）



※2006年4月1日を効力発生日として1株につき5株の割合、また、2012年7月1日を効力発生日として1株につき200株の割合で株式分割を実施しました。株価は調整後株価を示しています

日本たばこ産業株式会社

〒105-6927 東京都港区虎ノ門四丁目1番1号
TEL.(03)6636-2914(代表) <https://www.jti.co.jp/>

将来に関する記述等についてのご注意

本資料には、当社又は当社グループの業績に関連して将来に関する記述を含んでおります。かかる将来に関する記述は、「考えています」「見込んでいます」「予想しています」「予想しています」「計画」「戦略」「可能性」等の語句や、将来の事業活動、業績、事象又は条件を表す同様の語句を含むことがあります。将来に関する記述は、現在入手できる情報に基づく経営者の判断、予測、期待、計画、認識、評価等を基礎として記載されているに

過ぎません。これらの記述ないし事実又は前提（仮定）については、その性質上、客観的に正確であるという保証も将来その通りに実現するという保証もなく、当社としてその実現を約束する趣旨のものでもありません。また、かかる将来に関する記述は、さまざまなリスクや不確実性に晒されており、実際の業績は、将来に関する記述における見込みと大きく異なる場合があります。